

ABCアナウンサー
堀江政生の

Sinfonia
Hour



シンフォニア・アワー

クラシックの意外な裏話や、ザ・シンフォニーホールにまつわる話など、
ここだけのとっておきエピソードをご紹介します。

vol.4 親友っていいですね

(12月1日、レーピン「偉大なる芸術家の思い出」演奏会にちなんで)

アナウンサーを目指すきっかけは深夜放送でした。中学と高校の同級生のEと二人で、番組に長い手紙を書き、どちらが早く読まれるか競ったものです。その勝負には負けましたが、最終的に二人とも読まれ、そのときの感激が忘れられず、いざ就職というときに、私はアナウンサーを目指し、Eは出版社を経て、フリーのライターをしています。放送という世界があり、そこに投稿をしていた親友がいなければ、今の自分はないかもしれないと日々感じながらこの仕事をしています。

法律家だったチャイコフスキーは、若い頃から音楽の才能にあふれ、どうしても音楽家になりたかった。そのことをそばで見ていた親友の音楽家ニコライ・ルビンシュテインは、チャイコフスキーのために、なんと音楽学校を開設してしまうのです。それが現在のモスクワ音楽院です。(なぜか正式名称は、『チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院』。ニコライの名前はありません。へんですね?)

ニコライの思いを意気に感じたチャイコフスキーは役所をやめ、音楽院での学びをはじめ、めきめきとその才能を開花させていく。偉大なる作曲家の誕生です。その後、チャイコフスキーはニコライに曲を献呈するなどして、交友関係を続けていくのですが、チャイコフスキー41歳のとき、ニコライは45歳でこの世を去ってしまいます。その際、チャイコフスキーは感謝と追悼の意をこめ、ピアノ三重奏「偉大なる芸術家の思い出に」を贈ったのです。

そのチャイコフスキーが亡くなったことを悼んで、ラフマニノフがピアノ三重奏を作り、ショスタコーヴィチも友人の死にピアノ三重奏を贈るという流れもロシアでは生まれました。

偉大なる作曲家チャイコフスキーが「偉大なる芸術家」と称したニコライ・ルビンシュテイン。この人がいなかったら、チャイコフスキーは法律家として一生を終え、そうすると、数々の名曲や、ひいてはラフマニノフやショスタコーヴィチの名曲も存在しなかったということになります。あらためて、どんな偉人であつても人と人とのつながりがいかに重要であるかを痛感します。

しかし、作曲家はいいですね。誰かを追悼する作品を書き残すことができて…

アナウンサーは、喋ったことが流れてしまいますので、何も残せません。せめて、この原稿を親友のEに感謝して贈りましょうか。あ、彼?いやいや、元気にしていますよ。

公演の聴きどころ、豪華ゲストを招いてのお話など、名曲とともにご紹介!



堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー

ABCアナウンサー堀江政生が、豊富なクラシックの知識を余すところなく語る30分。

1008 ABC Radio

毎週日曜日
あさ7時5分~7時35分